

国立国語研究所学術情報リポジトリ

第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1998

第5回国語研究所国際シンポジウム報告

1. シンポジウム全体会

テーマ：「言語研究と世界のシソーラス」

日時・場所：平成9年8月29日(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター・国際会議室

参加者：約200名

1964年に刊行された国立国語研究所資料集4『分類語彙表』は、現在31版を重ね、一般用語のシソーラスとして実用そして研究用として広く用いられている。国立国語研究所では、十数年前から組織的に『分類語彙表』の増補作業を行い、現在その収録語数は約87000語となっている。また、最近、各種のシソーラスが日本国内はもとより、世界各地で作られており、その利用も、言語研究のみならず、対照研究、第2言語教育、辞書学、図書館学、言語情報処理など多領域にわたっている。このような状況をふまえ、各国、各分野の研究者による研究成果の発表と討論の機会をもうけることにした。内容は以下のとおり。

第1部：講演

『分類語彙表』と日本語研究

中野 洋 (国立国語研究所)

Semantics and the Thesaurus

Reinhard R.K. Hartmann (エクセター大学)

中国語辞書の歴史と現状

李 行健 (中国社会科学院) (代読：周 薦 (南開大学))

第2部：世界のシソーラス

A Mutually Defining Circle of Words

Tom McArthur (“English Today” 編集長)

Societal Context in Sanskrit, English and Hindi Thesauruses and Multilingual

Possibilities in the Computer Age

Arvind Kumar (ジャーナリスト)

中国におけるシソーラスの分類法と用途

陳 慶煌 (北京外国語大学)

日本語のシソーラス

荻野 綱男 (東京都立大学)

第3部：討論

シソーラスへの要望—言語研究者の立場から—

宮島 達夫 (京都橘女子大学)

討論

コメント

林 大 (国立国語研究所名誉所員)

中野洋は『分類語彙表』の紹介とそれを用いた日本語研究の現状について報告をおこなった。ハートマン氏からは意味論と辞書学・シソーラス研究との関係について、また李行健氏からは中国における辞書の系譜について報告があった。

第2部では、各講演者が作成に関わったシソーラス (マッカーサー氏の “Longman Lexicon of Contemporary English”, クマール氏の “Samantar Kosh”, 陳氏の『簡明漢語意味分類辞典』, 荻野氏の名詞シソーラス) の特徴や作成上の問題点などが報告された。

第3部では、まず宮島氏から言語研究に役立つシソーラスの条件が示され、それを受けて、講演者がシソーラスを用いた言語研究のあり方、シソーラス作成における言語研究の役割などについて討論を行った。最後に『分類語彙表』の執筆者である林氏からコメントがあった。

全体会と専門部会の内容は報告書の形で公開する予定である。

2. 専門部会（第1～第3）

第1 専門部会「言語研究とシソーラス」

（平成9年8月27,28日、国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室）

シンポジウム全体会の趣旨と関連する内容の研究発表を公募し、審査を通過した24件の研究発表を2日間にわたっておこなった。

参加者約190名の内訳は、日本語学、英語・中国語・韓国語・アラビア語などの外国語学、第2言語教育、図書館学・専門語、言語情報処理がそれぞれ5分の1ずつを占め、シソーラスが多くの分野の研究者の興味をひいていることをうかがわせた。

質疑・応答には、各分野の専門家だけでなく、他分野からも積極的な発言があり、参会者にとって新たな研究の視点を獲得する機会となった。また、中国、韓国、マレーシア、インド、エジプト、英国、ウクライナなど海外からの参加者もあり、今後の研究交流の広がりが期待される。

ロビーでは、中国・南開大学の周薦氏の講演「この二十年間における現代中国語語彙研究の概説」に対する言語処理研究者からの高い評価や、日本語研究者である石井正彦氏の研究発表「学術用語の造語成分の意味分類—『分類語彙表』を使って—」に対する専門語研究者からの期待が聞かれた。また、各言語にわたる辞書研究会の企画などについても話し合われていた。

第2 専門部会「海外日本語研究文献目録の今後について」

（平成9年8月30日、国立国語研究所第一会議室）

国語学会と国立国語研究所の共同事業としておこなわれた「海外日本語研究文献目録」が完成し、国立国語研究所のホームページにもその大部分が掲載されている。現在、文献目録を今後いかに保守・更新するかが問題になっているが、第2 専門部会では、文献目録作成の関係者及び文献目録の保守・更新に関心をもつ者が集まり、今後の可能性について議論をおこなった。

第3 専門部会「国語教育と日本語教育の統合的研究 Part II」

（平成9年8月28日、国立国語研究所第二会議室）

第3 専門部会には、文部省科学研究費（創成的基礎研究費）「国際社会における日本語についての統合的研究」（代表：水谷修）の研究班4「情報発信のための言語資源の整備に関する研究」の教育チーム「日本人及び外国人に対する言語教育の統合的研究」の活動の一環としておこなうものである。本研究は、日本の義務教育でおこなわれている言語教育について根本的な調査・検討を加えることを目標としている。今回は、昨年に引き続き、国語教育、日本語教育、英語教育の専門家29名が集まり、これら三分野をいかに統合的な観点からとらえるかについて議論をおこなった。